

第67回 電気科学技術奨励賞を受賞

第67回電気科学技術奨励賞贈呈式が、2019年11月20日、東京都内にて行われ、賞状ならびに記念楯が受賞者に贈呈されました。

「電気科学技術奨励賞」(発足当時の名称はオーム技術賞)は、昭和28年に創設され、電気科学技術分野に関する発明、研究、実用化等で優れた業績をあげた方々に贈られ、歴史の深さとその領域の広さが特徴で、最近では電気関係者のみならず科学技術各界からも注目を集めている権威ある賞です。今回は、当社から2名が受賞しました。

杉本 重幸さん(技術開発本部電力技術研究所流通グループ)と浅野 充俊さん(電力ネットワークカンパニー三重支社津電力センター変電課)が「リチウムイオンキャパシタ式短時間停電補償装置の開発と実用化」により受賞しました。*株式会社明電舎との共同受賞

受賞者は、電気二重層キャパシタの約3倍のエネルギー密度を持つリチウムイオンキャパシタを蓄電部に用いた

短時間停電補償装置を開発しました。本装置は、瞬時電圧低下に加え、数十秒程度の短時間停電まで補償を可能とし、非常用発電機と組み合わせることにより完全無停電も実現し、自家用発電機の代替も期待できる点が評価されました。



贈呈式会場にて(左から)杉本さん、浅野さん

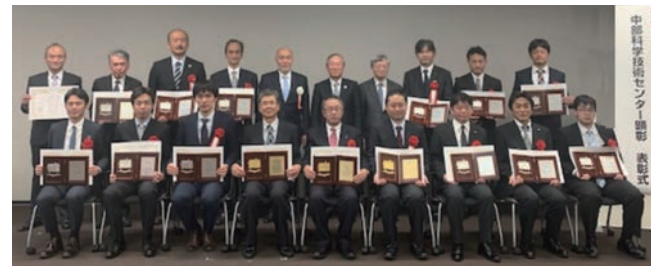
中部科学技術センター顕彰を受賞

エネルギー応用研究所・生産技術グループ・基礎技術チームの長伸朗^{おさ}チームリーダーが、2015年発表の「超高速昇温コンパクト炉」について、第18回中部科学技術センター顕彰の奨励賞を受賞しました。

同賞は、公益財団法人中部科学技術センターが、優れた研究開発を行い産業技術の振興に顕著な業績を挙げた企業の研究者を顕彰するものです。

開発品は、自動車工場などの加熱工程の生産時間を大幅に短縮でき、トヨタ自動車の工場などに多数が採用されています。今回の顕彰では、その独創性と長年の研究蓄積が評価されました。表彰式は12月3日に名古屋市の

ウインクあいちで執り行われ、株式会社豊電子工業との共同受賞となりました。



受賞した長^{おさ}さん(前列右から3番目)

「テクノフェア2019」開催

技術開発本部では、2019年10月31日(木)～11月1日(金)の2日間、恒例のテクノフェア2019を開催しました。27回目を迎える今回は、「エネルギー新時代 未来へチャレンジ」(新たな時代の安定供給・新しいコミュニティの実現へ)をテーマに掲げ、会場では、「原子力安全技術」「新たな時代の安定供給」「コミュニティサポートインフラの提供・革新技術」「エネルギー事業を支える基盤技術」の4つの展示分野にグループ分けし、最新の取り組み・事業を紹介するとともに、ドローンの実演、MMS(モバイル・マッピング・システム)・電動車いす

(WHILL)の実車、変電所作業工具や分析装置の実機、AI・画像解析技術など工夫を凝らし紹介しました。また、昨年に引き続き(一財)電力中央研究所の研究紹介やグループ会社の技術紹介もしました。

両日とも天候に恵まれ、企業や学校、行政、地域のみならず、昨年を超える3250名の方々にご来場いただきました。

今後も最新の研究成果等を紹介し、より良いフェアとしていきますので、次回も多数のみなさまのご来場をお待ちしております。